編集部に寄贈していただいた書籍

（2021 年 1 月～ 12 月）

麻田雅文著『蔣介石の書簡外交――日中戦争，もう一つの戦場――（上下）』人文書院　2021, 254 pp.（上），254 pp.（下）

荒　哲著『日本占領下のレイテ島――抵抗と協力をめぐる戦時下フィリピン周縁社会――』東京大学出版会　2021, 240+(89) pp.

アンソニー・リード著 太田 淳・長田紀之監訳『世界史のなかの東南アジア――歴史を変える交差路――（上下）』名古屋大学出版会　2021,（上）ix+380+6 pp.,（下）vi+318-712+46 pp.

五十嵐隆幸著『大陸反攻と台湾――中華民国による統一の構想と挫折――』名古屋大学出版会　2021, x+363+24 pp.

石戸光・鈴木絢女編『グローバル関係学 3 多元化する地域統合』岩波書店　2021, ix+281 pp.

伊藤公二著『グローバル化と中小製造業の選択――ミクロデータから「境界線の企業」を見る――』京都大学学術出版会　2021,iii+244 pp.

井上敏孝著『日本統治時代台湾の築港・人材育成事業』晃洋書房　2021, ii+249 pp.

大谷順子編『四川大地震から学ぶ――復興のなかのコミュニティと「中国式レジリエンス」の構築――』九州大学出版会　2021, 297+ii pp.

加藤泰史・小倉紀蔵・小島毅編『東アジアの尊厳概念』法政大学出版局　2021, vi+538+(6) pp.

加納啓良著『インドネシア――21 世紀の経済と農業・農村――』御茶の水書房　2021, viii+270 pp.

川上桃子編・監訳 呉介民編 津村あおい訳『中国ファクターの政治社会学――台湾への影響力の浸透――』白水社　2021, 274+ix pp.

木村真希子著『終わりなき暴力とエスニック紛争――インド北東部の国内避難民――』慶應義塾大学出版会　2021, v+194 pp.

厳　善平著『ミクロデータからみる現代中国の社会と経済』勁草書房　2021, vii+277 pp.

呉叡人著 駒込武訳『台湾，あるいは孤立無援の島の思想――民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて――』みすず書房　2021, iv+452 pp.

小嶋華津子著『中国の労働者組織と国民統合――工会をめぐる中央－地方間の政治力学――』慶應義塾大学出版会　2021, vi+325+9 pp.

古島義雄著『中国経済は強い――そのシステムとポストコロナの世界経済――』晃洋書房　2021, vii+211 pp.

児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ――グローバル・サウスから読み解く世界情勢――』ミネルヴァ書房　2021, xii+270 pp.

小西鉄著『新興国のビジネスと政治――インドネシアバクリ・ファミリーの経済権力――』京都大学学術出版会　2021, xi+305 pp.

下條尚志著『国家の「余白」――メコンデルタ 生き残りの社会史――』京都大学学術出版会　2021, xii+558 pp.

髙橋昭雄著『ミャンマーの体制転換と農村の社会経済史――1986-2019 年――』東京大学出版会　2021, iii+295 pp.

高橋伸夫著『中国共産党の歴史』慶應義塾大学出版会　2021, iii+347+29 pp.

段瑞聡著『蔣介石の戦時外交と戦後構想――1941-1971 年――』慶應義塾大学出版会　2021, vii+477+6 pp.

鄭浩瀾・中兼和津次編著『毛沢東時代の政治運動と民衆の日常』慶應義塾大学出版会　2021, iv+313 pp.

寺村絵里子編著 萩原里紗ほか著『日本・台湾の高学歴女性――極少子化と仕事・家族の比較――』晃洋書房　2021, vi+150 pp.

唐成著『家計･企業の金融行動から見た中国経済――「高貯蓄率」と「過剰債務」のメカニズムの解明――』有斐閣　2021, xv+211 pp.

中兼和津次著『毛沢東論――真理は天から降ってくる――』名古屋大学出版会　2021, vi+407+22 pp.

中兼和津次編『毛沢東時代の経済――改革開放の源流をさぐる――』名古屋大学出版会　2021, viii+301 pp.

中西嘉宏著『ロヒンギャ危機――「民族浄化」の真相――』中央公論新社　2021, v+252 pp.

林田秀樹編著 生方史数ほか著『アブラヤシ農園問題の研究Ⅱ【ローカル編】――農園開発と地域社会の構造変化を追う――』晃洋書房　2021, x+302 pp.

林田秀樹編著 加納啓良ほか著『アブラヤシ農園問題の研究Ⅰ【グローバル編】――東南アジアにみる地球的

課題を考える――』晃洋書房　2021, ix+305 pp.

藤井真一著『生成される平和の民族誌――ソロモン諸島における「民族紛争」と日常性――』大阪大学出版会　2021, xv+306 pp.

ブリューノ・テレ著 坂口明義監訳 中原隆幸・北川亘太・須田文明訳『社会的事実としての貨幣――その統一理論と多様な現実　ネオ・レギュラシオン・アプローチ――』晃洋書房　2021, xxii+263+26 pp.

堀内義隆著『緑の工業化――台湾経済の歴史的起源――』名古屋大学出版会　2021, vi+278 pp.

丸川知雄・李海訓・徐一睿・河野正著『タバコ産業の政治経済学――世界的展開と中国の現状――』昭和堂　2021, vii+248 pp.

宮下遼著『世界の言語シリーズ 16　トルコ語』大阪大学出版会　2021, xv+324 pp.

宮脇幸生・戸田真紀子・中村香子・宮地歌織編著『グローバル・ディスコースと女性の身体――アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性――』晃洋書房　2021, viii+171 pp.

村橋勲著『南スーダンの独立・内戦・難民――希望と絶望のあいだ――』昭和堂　2021, xvi+251+xlvi pp.

村山宏著『アジアのビジネスモデル――新たな世界標準――』日本経済新聞出版　2021, 238 pp.

山尾大著『紛争のインパクトをはかる――世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編――』晃洋書房　2021, vi+284 pp.

山口信治著『毛沢東の強国化戦略――1949-1976――』慶應義塾大学出版会　2021, v+439+30 pp.

山崎亮一著『比較熱帯デルタ農業論――メコン河とニジェール河――』筑波書房　2021, 388 pp.

山田肖子・大野泉編著『途上国の産業人材育成――SDGs 時代の知識と技能――』日本評論社　2021, xiii+330 pp.

吉澤誠一郎著『愛国とボイコット――近代中国の地域的文脈と対日関係――』名古屋大学出版会　2021, iii+282+22 pp.

林采成著『東アジアのなかの満鉄――鉄道帝国のフロンティア――』名古屋大学出版会　2021, viii+628 pp.

Justin Thomas McDaniel, *Wayward Distractions: Ornament, Emotion, Zombies and the Study of Buddhism in Thailand,* NUS Press (Kyoto CSEAS Series on Asian Studies), 2021, vii+281 pp.

Koichi Fujita, Tsukasa Mizushima eds., *Sustainable Development in India Groundwater Irrigation, Energy Use, and Food Production,* Routledge, 2021, xviii+251 pp.

Takashi Shiraishi, *The Phantom World of Digul: Policing as Politics in Colonial Indonesia, 1926-1941,* Kyoto University Press & NUS Press, 2021, xi+347 pp.

Yukyung Yeo, *Varieties of State Regulation: How China Regulates Its Socialist Market Economy,* Harbard University Press, 2021, viii+202 pp.